

令和7年度 江戸川区立小岩第四中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>明るく、心身ともに健やかで、ひとりだちのできる心の豊かな人間育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主 自ら学び、考え、正しく判断して、責任をもって行動する ・品位 礼儀正しい態度と丁寧な言葉から生み出される人間としての内面の美しさ ・明朗 明るい笑顔ですべての人の幸せをつくり出す ・友愛 思いやりをもってすべての人に優しく温かく接する 	<p>目指す学校像 ・活気にあふれ、常に生徒の明るい声が聞こえる学校 ・安全・安心で、すべての生徒が生き生きと活動できる学校 ・生徒が学ぶ楽しさを味わい、生きる力を身に付けることができる学校 ・生徒・保護者・地域に信頼され、共に歩む学校</p> <p>目指す生徒像 ・校訓や生活指導指針「お（思いやり）み（身だしなみ）そ（掃除）あ（あいさつ）じ（授業）」を自ら実践する生徒</p> <p>目指す教師像 ・基礎的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を身に付けようとする生徒 ・自己研鑽に励み、互いに高めあえる教師・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・主体的に、熱意をもって教育に真摯に向き合う教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に引き続き、令和6年度も校内研究授業を実施し、主体的な学びのある授業について研修を進めた。 ・授業の中でICT機器を効果的に活用し、思考力・判断力・表現力を身に付ける授業を行った。 ・保健体育の授業での補強運動やランニング、部活動等を通し、生徒の体力向上を推進した。 ・生徒会主催で「いじめ撲滅運動」「SNSキャンペーン」を実施し、生徒の意識を高める取組を継続している。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着と向上。基礎的・基本的な知識・技能の定着と、思考力・判断力・表現力の向上を目指す取組の実践。 ・個々の生徒の実情に合わせた不登校対策。ステップルームや様々な人材を活用し、全ての生徒が何らかのつながりをもてるようにする。 ・校内OJTの充実。組織的な人材育成を実践する。 ・教職員の仕事改革。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学力向上 ・校内研修の充実 ・ICT機器の効果的な活用 ・補習教室、質問教室等の実施	◎校内研究授業の実施。全教員で授業力向上に向けて取り組む。 ◎ICT機器を効果的に活用した授業の実践。 ◎派遣講師による放課後補習教室、夏季休業中の補習。審査前の質問教室の実施。 ◎ALTの放課後英会話教室。	◇校内研究授業の年3回実施。 ◇全教員が60%以上の授業の中でICT機器を活用。 ◇放課後補習への参加を推奨。 ◇夏季休業中の補習、審査前質問教室の実施	80%	85%	B	○授業内でICT機器使用は定着してきている。 ○放課後補習参加希望生徒は後期には少なくなった。 ○夏季休業中の補習は7月22日～25日の4日間、3年生を対象に行った。審査前の質問教室は毎回実施している。	B	○ICT機器を活用して、授業が分かりやすくなり、生徒の興味・関心が高まっていくと良い。 ○放課後補習教室をもっと活用する生徒が増えると良い。	B	○校内研究授業では、活発な意見交換をすることができた。各教員が、校内研修を自身の授業に活かそうと意識できている。 ○ICT機器の活用も定着している。さらに効果的な活用方法について、今後も研修を続けていく。	B	○放課後の補習教室をもっと充実したものにすると良い。 ○タブレットと紙の教材の良いところを使い分けてほしい。 ○ICT機器の活用も定着している。さらに効果的な活用方法について、今後も研修を続けていく。	○引き続き、実践的な校内研修を続けていく。 ○放課後補習については、良い活用方法を検討し、充実させていく。
	○学力調査結果の分析・活用	◎全国学力調査・区学力調査・領域診断テストの実施。 ◎テスト結果を分析し、以降の授業に活かす。	◇全国学力調査で、都平均を上回ることを目指す。	60%	70%	B	○都平均には届かなかった。次年度に向けて、学力向上を目指す。	B	○日々の積み重ねを続けてほしい。	B	○テストや教科によって、都平均を上回った。継続的に上回るができるよう、授業改善を継続する。	B	○一部だけでなく、全体的に学力が上がってくると良い。	○学力調査の結果分析→授業改善の流れを確立していく。
	○各種検定試験の実施、資格取得の推奨	◎英検、漢検、数検を校内で実施し、受検を推奨する。 ◎ALTによる英検2次面接対策の実施。	◇3年間で80%以上の生徒が何らかの検定試験を受検する。	80%	80%	A	○英検、漢検、数検を校内で実施し、受検する生徒も増えている。	A	○検定試験を受ける生徒が増えるのは良いことだと思う。	A	○今実施している検定試験を継続し、受検する生徒が増えるような意識づけをしていく。	A	○資格を取ることの大切さを伝えていってほしい。	○ALTの先生にも引き続き依頼していく。
	○読書科の更なる充実	◎朝読書の充実。新聞記事・よむYOMUワークシートを活用。 ◎学校図書館や一人一台端末を活用した調べ学習。	◇新聞記事プリント・よむYOMUワークシートを週1回実施。 ◇四中生が全生徒が成果物を展示。	80%	80%	B	○朝読書の時間に、よむYOMUや新聞記事を読む曜日を決め、取り組んでいる。	B	○新聞を読む人が少なくなっているのは心配だ。	B	○読書科の成果物の質を向上させる。3年間を見通した計画を見直していく。	B	○「読む力」を生徒にしっかり身に付けさせてほしい。	○朝読書の時間の使い方も見直していく。
体力向上	○体操・補強運動・ランニングの実施	◎毎時間の保健体育の授業開始時に、体操・補強運動・体操・ランニングを実施。 ◎保健の授業で、互いに応援しあう雰囲気をつくる。	◇毎時間の授業で体操・補強運動・体操・ランニングを実施。 ◇体力調査で全国平均を上回る。	70%	80%	B	○授業中、他の生徒を応援するという習慣が身に付いている。	A	○いつも元気な声が聞こえていて、良いと思う。	B	○偏りなくいろいろな運動ができるようになるような取組をしていく必要がある。 ○個々の能力に合わせたメニュー作りについて検討する。	A	○外で運動する場所も少ないので、学校の体育の授業がますます大切になってくると思う。	○体力と同時に、運動することの楽しさを生徒に伝えていきたい。
	○食育・保健指導の充実	◎給食の残菜をなくす運動を継続的に実施。 ◎栄養士による食育指導、養護教諭等による保健指導を実施。	◇残菜調査の実施（通年）。 ◇年3回、食育・保健指導の授業を実施。	80%	90%	A	○残菜を少なくする取組を全てのクラスで実施している。 ○食育・保健指導を計画的に実施している。	A	○残さず食べる習慣を身に付けているのは良いと思う。	A	○生徒たちが率先して残飯をなくす取組を行うことができています。	A	○「食べ物を粗末にしない」ことをこれからも生徒に伝え、「食への感謝」の気持ちを育てていってほしい。	○無理におかわりして食べさせることはしない。
	○部活動の活性化	◎部活動指導員・外部指導員を必要に応じて導入。 ◎ガイドラインに沿って、やりがいのある活動を目指す。	◇1年間部活動を継続する生徒が90%以上。	90%	90%	A	○意欲的に取り組んでいる生徒が多い。	A	○バス部が関東大会に出場したのは素晴らしい。	A	○生徒たちはとても意欲的に取り組んでいる。 ○教員の負担になりすぎないように注意する。	A	○地域連携が進んでいくと良い。	○できる部活動から地域連携を進めていく。
実現に向けた教育の推進	○支援を必要とする生徒への対応	◎SC、SSW、特別支援コーディネーター等との連携。 ◎エンカレッジルームの効果的な運営。	◇特別支援委員会を毎週開催し、情報交換等を行う。 ◇巡回指導教員との連携。	70%	80%	B	○毎週、特別支援委員会を実施し、情報交換等を行っている。	B	○しっかりとした体制を整えているのは良いと思う。	B	○定期的な情報交換を行うことができた。より良い支援の仕方について、学校でできることを模索していく。	A	○様々な生徒が居心地よく学校に通うことができるようにしてほしい。	○巡回指導の先生方との連携をより深いものにしていきたい。
	○日本語学級との連携	◎日本語学級と連携を取りながら、海外につながる生徒が安心して登校できる環境をつくる。	◇日本語指導の充実。 ◇定期考査のルビ振り実施。	90%	90%	A	○都の日本語教育研究会と連携させながら、日本語指導を充実させる取組を行っている。	A	○海外と繋がる生徒が増えていくが大変だと思うが、日本語をきちんと教えてあげる体制を整えてほしい。	A	○日本語学級の人数が増えている。しっかりと連携ができています。	A	○外国籍の生徒がどんどん増えていて、大変だと思います。	○日本語の初期指導をスムーズにスタートさせたい。
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施	◎UDの視点を考慮した校内研究授業の実施。 ◎授業の中でICT機器を効果的に活用する。	◇年3回の校内研究授業実施。 ◇年4回のICT研修実施。	50%	70%	C	○UDの視点をより具体化して取り組んでいく必要がある。	B	○誰にでもわかりやすい授業を目指していってほしい。	B	○UDの意識を学校全体で高め、具体的な取組を進めていく必要がある。	B	○誰にでもわかりやすい授業を目指していってほしい。	○校内研修でもテーマとして取り上げ、具体的な取組等について検討していく。

不登校・いじめ対策	○思いやりの心の育成	◎学校行事・学級活動等の取組の中で、友達に対する思いやりの心を育み、達成感を味わわせる。	◇事後アンケート等で肯定的な意見が90%以上。	70%	80%	B	○普段の生活の中で、思いやりの足りない言動が見られる。	B	○明るく元気に生活している生徒が多いが、引き続き思いやりの心を育ててほしい。	B	○学校行事や学級活動を楽しむ生徒は多い。自分だけでなく、他の友達を思いやる気持ちの大切さを伝えていく。	B	○SNSなどで誹謗中傷というニュースがよくあるが、思いやりのある言葉がけのできる人になってほしい。	○思いやりのある言葉を発信できる生徒の育成を引き続き目指していく。
	○組織的な不登校防止対策の実践	◎ステップルールの整備・運営。 ◎不登校巡回教員との連携。 ◎不登校対策委員会の実施。	◇全ての不登校傾向の生徒が何らかのつながりをもつ。 ◇不登校対策委員会を毎週実施する。	70%	70%	B	○ステップルールの環境整備を進めることができた。 ○不登校巡回教員との連携体制を構築することができてきている。	B	○不登校傾向の生徒が別室に登校できるのは良いと思う。より多くの生徒に登校できるようになると良い。	B	○不登校対策委員会を定期的に実施することができた。 ○不登校生徒を増やさない取組を引き続き模索していく。	B	○保護者との連携が重要。いろいろな学び方を選択できるようにするのは良いと思う。	○より良い不登校対策について、対策委員会で検討していく。
	○「いじめ撲滅運動」の実施	◎生徒会が中心となっていじめ撲滅運動を進め、生徒自身がいじめを許さない・見逃さない雰囲気をつくる。	◇いじめアンケートを年3回以上実施し、未解決ないじめを0とする。	70%	70%	B	○6月26日の生徒総会でいじめ撲滅宣言を発表し、生徒自身で意識を高めている。	A	○引き続き、いじめ撲滅に取り組んでほしい。	B	○なかなか解決できず、長引いてしまった件があった。 ○学校いじめ対策委員会を中心に組織的な対応をしていく。	B	○いじめを見逃さない取組を続けてほしい。	○来年度、「いじめ対策」に重点を置き、学校全体でいじめ撲滅に取り組んでいく。
地域学校社会に開かれた	○地域行事等への生徒参加	◎西小岩まつり・地区運動会等へのボランティア生徒の参加。	◇1年間で累計200名以上の生徒がボランティア活動に参加。	70%	80%	B	○様々なボランティア活動に自主的に参加する生徒がいるが、さらに増やしていきたい。	A	○中学生が地域行事に参加してくれるのはとてもうれしい。引き続き協力をお願いしたい。	B	○様々な行事にボランティアとして参加する生徒がいた。	A	○次年度以降も引き続き地域行事に協力してほしい。	○引き続きボランティアマインドの育成に努めていく。
	○学校ホームページの充実	◎学校ホームページの定期的更新。	◇学校ホームページを週3回以上更新する。	80%	80%	A	○給食のページをはじめ、定期的に更新できている。	A	○こまめに更新してくれるのは良いと思う。	A	○1年間を通して定期的に更新することができた。	A	○保護者や地域に学校の様子が分かるようなホームページにしてほしい。	○より良いHPをつくるために工夫していく。
	○学校関係者評価の充実	◎保護者アンケートの実施。 ◎学校評議員会の開催（年3回）。	◇年1回の保護者による学校評価実施。 ◇大きな行事の事後アンケートを実施。	80%	80%	B	○6月、9月に学校評議員会を実施した。	B	○引き続き協力していきたい。	A	○年3回の学校評議員会、年1回の保護者アンケートを予定通り行った。	A	○引き続き協力していく。	○学校評議員の方々が授業を見られる機会をより多く設定していきたい。
特色ある教育の展開	○「おみそあじ」の励行	◎本校の合言葉「お（思いやり）・み（身なり）・そ（掃除）・あ（挨拶）・じ（授業）」を大切にすると雰囲気をつくる。	◇行事や朝礼・集会等で定期的に呼びかけ、常に生徒に意識させる。	80%	90%	B	○掃除を丁寧にする生徒が多い。 ○挨拶も元気にする生徒が多くなっている。	A	○いつも学校に来ると元気に挨拶してくれる生徒が多く、良いと思う。	A	○「生徒がよく挨拶してくれる」という意見を多くいただいた。	A	○元気に挨拶してくれる生徒が多い。	○「おみそあじ」を小岩四中の伝統として継承していく。
	○「切磋琢磨」の実践	◎互いに磨き合い、高め合う心の醸成	◇全校朝礼や道徳の授業等を活用する。	80%	80%	B	○引き続き「切磋琢磨」を意識させていきたい。	B	○引き続き意識させてほしい。	B	○学校行事に前向きに取り組む生徒が多かった。その中で互いに磨き合うことができていた。	A	○「切磋琢磨」の気持ちはずっともってほしい。	○周りと協力し、互いに磨き合う気持ちを、これからも育成していく。
	○働き方改革の推進	◎行事や庶務の精選。 ◎ペーパーレス化の推進。	◇tetoru等を活用してペーパーレス化を継続する。	70%	80%	B	○tetoruによる配信は定着してきている。	B	○ペーパーレス化はどんどん進めていくべきだと思う。	B	○時間外勤務時間が長くなってしまふ教員が複数いる。 ○ペーパーレス化を進めることができていく。	A	○先生方の仕事量の多さが社会問題になっている。有効な対策を考えてほしい。	○教員の業務量の精選に取り組んでいく。